

小児がん化学療法におけるホスアプレピタントメグルミンの制吐効果と安全性について

○蟬川由美、小林知世、中山淳司、舩井佳奈、愛甲佳未、永井浩章、坂本有里恵、三輪祐太郎、北村晃子、藤永仁美、赤松規子、上田里恵、福井由美子、加古学

【目的】抗がん剤治療による副作用で QOL に大きな影響を与えるものとして悪心・嘔吐が挙げられるが、その予防として近年では NK₁ 受容体拮抗薬が併用されるようになった。注射薬のホスアプレピタントメグルミン（以下 Fos APR）は小児適応はないが、当院では嘔吐が予測される内服困難な児に使用している。今回、小児での有効性と安全性について検討した。

【方法】当院で 2013 年 2 月から 2015 年 3 月まで同一レジメンを使用し、初回治療時に Fos APR を併用せず、2 回目以降に併用した患児について後方視的にそれぞれの嘔吐回数、肝、腎機能を含む副作用の発現状況について検討した。

【結果】対象患児は 8 名、年齢 3～12 歳であった。全体では抗がん剤投与後 5 日間で発現した嘔吐はいずれも G1～2 で、その平均回数は Fos APR 併用なしで 4 回、併用ありで 3.1 回であった。8 症例中 Fos APR 併用により嘔吐回数の減少がみられた 4 症例では、5 日間の平均嘔吐回数は Fos APR 併用前 3.5 回、併用後 0.8 回であった。なお、抗がん剤投与後 1 日目の平均嘔吐回数は Fos APR 併用有無に関わらず 0.3 回であったが、2 日目以降 5 日目までの平均嘔吐回数は Fos APR 併用なしで 3.3 回、併用ありで 0.5 回であった。また、全症例で Fos APR 併用後の特筆すべき副作用もみられず、抗がん剤投与 2 週間後の肝、腎機能の指標は Fos APR の追加に影響しなかった。

【考察】Fos APR の併用により抗がん剤投与後の嘔吐回数は減少傾向がみられ、特に著効した 4 症例では 2 日目以降の嘔吐が抑制された。Fos APR の併用による副作用発現頻度は著効、無効例に関わらず差はみられず、小児においても安全な薬剤であると示唆された。

【結論】Fos APR は小児のがん化学療法に対しても安全に使用可能であり、嘔吐を減少させ QOL を改善できることが期待できる。